

メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ

リハビリテーション概論

真柄 彰・鴨下 博 編著

理工図書

コメディカル専門基礎科目シリーズ リハビリテーション概論

編集者

真柄 彰 新潟医療福祉大学 医療技術学部 教授
鴨下 博 医療法人社団 充会 上川病院 院長

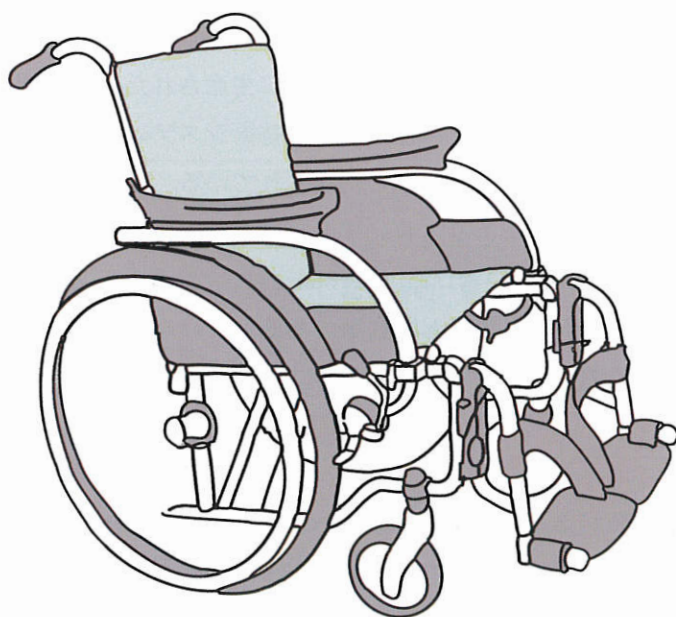
執筆者

第1章 真柄 彰 新潟医療福祉大学 医療技術学部 教授
鴨下 博 医療法人社団 充会 上川病院 院長
第2章 村田 淳 千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション科 診療教授
第3章 間島 満 埼玉医科大学病院 リハビリテーション科 教授
第4章 藤井博之 日本福祉大学 社会福祉学部 教授
第5章 吉永勝訓 千葉県千葉リハビリセンター センター長
第6章 大嶋伸雄 首都大学東京 健康福祉学部 教授
第7章 押木利英子 新潟リハビリテーション大学 副学長
第8章 能登真一 新潟医療福祉大学 医療技術学部 教授
第9章 長谷川純 県立広島大学 保健福祉学部 准教授
第10章 佐々木信幸 国際医療福祉大学 熱海病院 准教授
第11章 木之瀬隆 NPO 日本シーティング・コンサルタント協会 理事長
第12章 若林秀隆 横浜市立大学附属市民総合医療センター 診療講師
第13章 石川知志 豊橋市民病院リハビリテーション科 部長
第14章 小林量作 新潟医療福祉大学 医療技術学部 教授
第15章 蜂須賀研二 門司メディカルセンター 院長

第11章

車いすシーティング

～支援技術とシーティング技術～



リハビリテーションの障がい者支援技術として欧米ではアシスティブ・テクノロジー (Assistive Technology: 以下、支援技術と略す) がある¹⁾²⁾。支援技術は、障害のある人を支援するための技術全般をさし、障害があるためにできない動作や作業を改善し可能にするための技術である。国際生活機能分類 (ICF) のアセスメントを行い、支援技術により、重度障害のある人が自由に教育を受け、一般の人と一緒に社会の中で生活をし、働く状況にすることにある (図 11.1)。次に、シーティング技術は支援技術の一領域であり、発達障がい児・者や中途障がい者、高齢者が椅子・車いす、または座位保持装置を適切に活用し活動と参加のための支援をさす³⁾。また、二次障害の予防や介護者の負担を軽減する領域も含まれる。重度障害があっても、車いすシーティングの対応により座位保持ができると電動車いすでの移動が可能となり、ICF における参加が拡大する。ここでは、リハビリテーションに関わる職種、特に理学療法士、作業療法士がリハビリテーションの支援技術を理解し、実践の中で支援技術やシーティング技術の対応ができるための基本を解説する。

1 支援技術

1.1 支援技術と環境因子の関係

ICF の環境因子 (environmental factors) は、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである⁴⁾。環境因子には生産品と用具があり、自然環境と人間がもたらした環境変化、支援と関係、態度、サービス・制度・政策となっている。生産品と用具 (Products and technology) は「障害のある人々が使用する、特別に生産されたあるいは一般的に利用し得る、あらゆる生産品、器具、装置あるいは技術システムであり、障害を予防し、代償し、監視し、中和化するもの」と定義されている。環境因子の基本は障害のある人の身体に接する用具であり、車いすやベッドなどがそれにあたる。また、国の JIS T 0102 の分類では、「Assistive Products」は支援機器と訳されている⁵⁾。また、支援機器は国内の福祉用具と同意語であるが、パソコンなどを含む就労支援機器なども含まれる領域の広いものである。

1.2 支援技術の分類

支援技術はいくつかの分類があるが、障害分類にあわせた場合は、移動・姿勢障害、視覚障害、聴覚障害、認知障害などになる (表 11.1)²⁾。ここでは、移動・姿勢障害では、車いすシーティング機器、移乗機器、歩行器などがある。次に、視覚